

令和7年度  
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業  
実施計画書（継続団体用）

活動団体の本事業での活動テーマ

『里山の恵みを次世代へ  
自然の恩恵から生まれる

森林健康サービス産業の構築』

活動団体の活動地域：広島市・安芸太田町

活動団体名：特定非営利活動法人

広島横川スポーツ・カルチャークラブ

中間支援主体名：一般社団法人地域商社あきおおた

# 参加団体の基本情報

## (1) 活動団体の基本情報

団体名	特定非営利活動法人 広島横川スポーツ・カルチャークラブ
活動地域	広島市・安芸太田町
専門性・強み	
指定管理者として施設管理運営のノウハウ 行政及び地域内関係者との繋がりを活かしたハブ的な活動 交通結節点としての様々な人が行き交うエリア（横川）でのネット ワーク	

団体概要
<ul style="list-style-type: none"><li>● 広島市内及び中山間地域の発展に寄与することを目的として、地域住民や国内外旅行者などに対して文化、芸術、農林水産各産業、教育など各種体験を含んだ取り組みや、その支援および施設運営に関する交流事業などを実施</li><li>● 安芸太田町では平成27年度から宿泊施設を併設した貸し農園を指定管理者として業務運営し、平成30年度からはキャンプ場を含む自然公園の管理も受託</li><li>● 広島市横川エリアでは街を仮想空間に表現して交流する横川メタバースプロジェクト「体験イベント」や「横川まちの芸術祭」とのコラボイベント、AR体験の「横川ゾンビナイト」や「横川かよこバス祭り」を実施</li></ul>

## (2) 中間支援主体の基本情報

団体名	一般社団法人地域商社あきおた
活動地域	広島県山県郡安芸太田町
専門性・強み	
自治体（安芸太田町役場）との連携 観光地域づくり法人（DMO） 安芸太田町ヘルスツーリズム推進協議会 事務局 安芸太田町田舎体験推進協議会 事務局	

団体概要
<ul style="list-style-type: none"><li>● 安芸太田町及び周辺地域の産業の活発化による地域振興の推進を目的として平成30年1月に設立、代表理事は安芸太田町長</li><li>● 令和3年11月に観光庁の観光地域づくり法人（DMO）に認定登録</li><li>● 道の駅「来夢とごうち」の指定管理者として売店、ECサイト事業を展開し、特産品を活用した商品開発と販路開拓を実施</li><li>● 安芸太田町ヘルスツーリズム推進協議会、安芸太田町田舎体験推進協議会の事務局運営を通して、森林セラピーや教育旅行における民泊体験、ダム湖を活用したウォーターアクティビティ等を推進</li></ul>

# 活動団体と地域の紹介

## 地域の紹介

- 安芸太田町は広島県の北西部、母なる川「太田川」の源流域に位置し、平成16年10月1日に加計町、戸河内町、筒賀村の2町1村が合併して誕生
- 町面積のうち約9割を森林が占め、県内で最も人口の少ない自治体
- 地域内は標高差があり、山・川・湖と四季折々に多様な地域資源が存在
- 国の特別名勝三段峡、県内最高峰の恐羅漢山などを含む各スポットにおける森林浴効果が科学的に実証された「森林セラピー基地」に広島県で初めて認定されており、その他自然や伝統文化を活かした体験プログラムなども充実
- 百万都市の広島市中心部からも高速道を利用すれば約60分、都会の喧騒を離れゆったりと自然と触れ合い、心身のリフレッシュをしたい人に最適なスポット

## 活動団体の紹介

- 安芸太田町との様々な繋がり、及びご縁のなかで昨年度よりこの環境省の支援事業に採択していただき、地域のハブ的な役割を担う
- 都市と地方、双方向との繋がりを活かした情報交換・情報共有をこれまで以上に行っていくよう、日々奮闘中

# 活動団体の目指す地域の姿

## ■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

地域の内・外や年齢・性別・国籍を問わず、誰もが参加できる「場」が提供され、そこから次々と新しいプロジェクトが生まれ続け、地域経済の活性化、地域社会の発展および美しい自然環境が永続する状態

## ■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

安芸太田町内で観光に関わる事業者・団体・個人および教育関係者、ならびに町外の企業・団体・教育関係者と、課題に応じた様々な意見が生まれる「場」を創り、魅力的なコンテンツを創出する

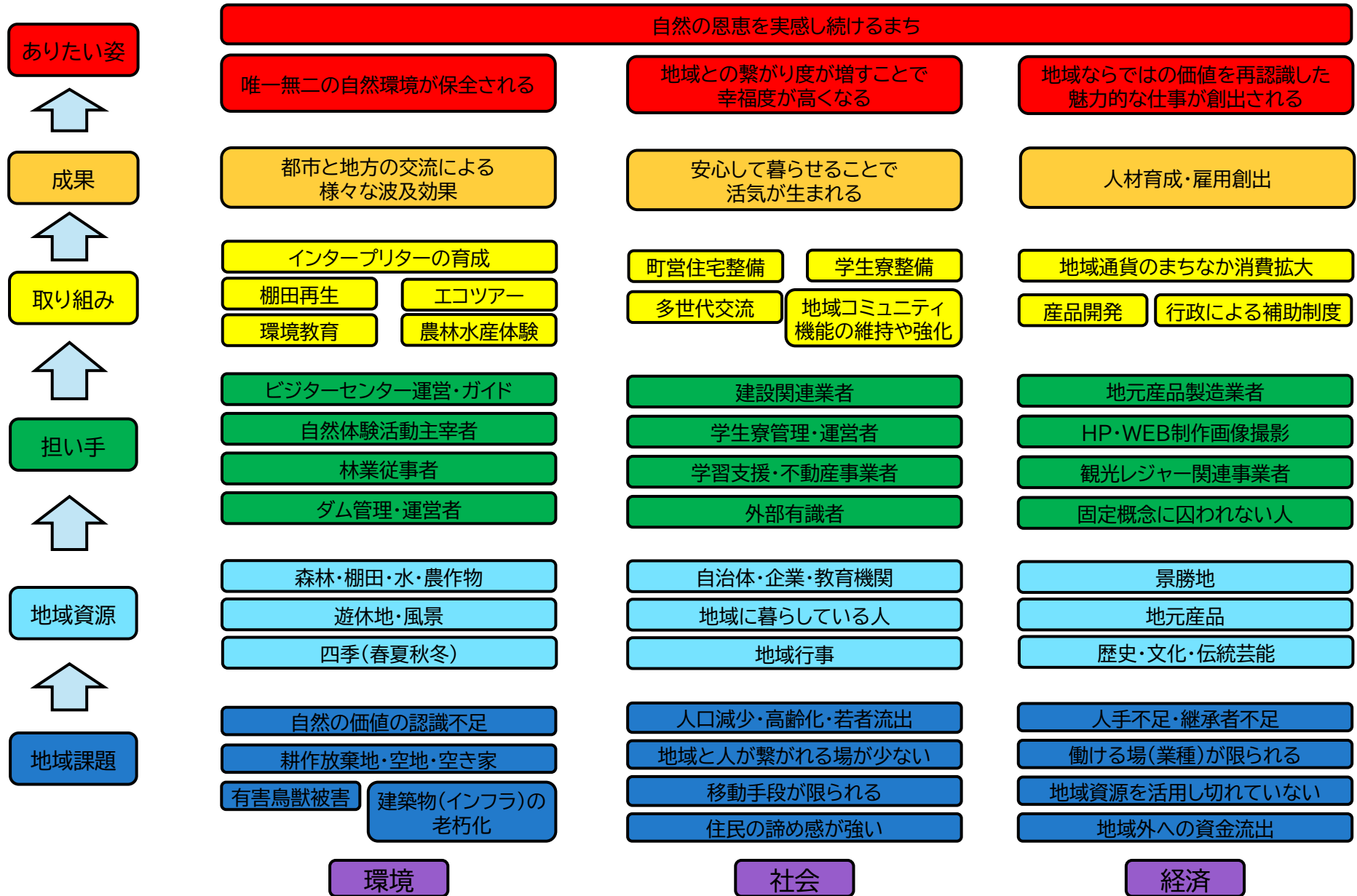
## ■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

- 森林セラピーロード周遊型観光事業
- ヘルスツーリズム循環・体験プログラム事業
- 里山ガイド育成事業

## ■ 地域の現状と課題

- 広島市街地のデルタ地帯を構成する太田川の源流が流れ、国の特別名勝「三段峡」やパウダースノーが楽しめる恐羅漢山等自然豊かな里山である
- このまちを良くしたいという思いを持った人がつながる意見交換や 情報共有の「場」が創出され、コミュニケーションがより図られ地域の理解も深まり、関連するステークホルダー同士の信頼関係も構築できるようになった
- 今後も継続すること、ならびに活性化を図り、次々とプロジェクトを創出することが必要

# 現時点のマングラ





# ローカルSDGs 事業の詳細

井仁の棚田再生プロジェクト	
あらすじ	
<p>令和6年度に本事業により創出された地域プラットフォーム「森ラボ(安芸太田)」という「場」にて新たに繋がった各事業者が「井仁の棚田の保全・再生」という同じ想いのもと意気投合。それぞれの得意分野を活かし、ベテラン（農業）・中堅（自然体験）・若手（古民家宿）とバランスの取れた3人が中心となりコラボレーションすることで、魅力的な体験をつくりだし多くの来訪者を魅了する。</p> <p>その結果、地域外からも積極的に関わる人々が増え、単なるツーリズムにとどまらない持続可能な取り組みとなる。</p>	
ストーリー	
<p>広島県から唯一農林水産省の「棚田百選」に選ばれた「井仁の棚田」エリアを活動拠点としている地域おこし協力隊が、この春の任務終了時期に合わせて古民家宿を開始することとなった。準備段階における時期に、この支援事業において繋がった方々とコミュニケーションを図っていくにつれ、この古民家宿事業が地区の様々な課題解決に繋がるのではないかとすることに気付く。更に、このタイミングでこれまで行ってきた地域イベントなどの在り方などについても、これから先を見越した取り組みにしていけるよう地区内での対話も始まる。地区の新たな拠点整備を起爆剤として地域内外の人々が繋がることで活気が生まれ、「つなぐ棚田遺産」に認定されている安芸太田町内の他の2地区でも同様の取り組みが広がり、まち全体への波及効果をもたらすことで安芸太田というまちが本当の意味で一つになる！</p>	
事業の骨子	現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	唯一無二の自然環境が保全されることで集落が持続的に維持される
②課題	棚田の保全、熊などの害獣からの農地・農作物の保護、地域の自治活動、観光客の受入、冬場の除雪など、あらゆる面における人手不足
③なぜこの事業をやるのか（Why）	最も古い石垣は戦国時代（約500年前、室町後期）のものとして推測される歴史ある井仁の集落を存続し、棚田を後世に継承していくため
④地域資源	棚田・農作物・山・水・地域で暮らしている人（特に、井仁の源流水を広島国際院大学に分析していただいたところ、世界遺産である屋久島縄文水や白神山地湧水にほぼ匹敵する水質の名水であるということが分かりました。また、広島市内を流れる太田川の上流に位置しているため、水源涵養や環境、国土保全の観点から重要な役割を果たしています。）
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	これからの時代に必要とされ続ける棚田保全及び活用策となる都市と農村の新たな交流の仕組みとして宿泊と農業体験や自然体験が一体となったサービス（新たなカタチでの棚田オーナー制度など）
⑥担い手（Who）	古民家宿経営者（主に現地の環境整備を担う若手）・自然体験活動主宰者（幅広い活動を活かして主に資金調達を担う中堅）・農作物生産者（人脈や経験を地域に伝承していく役割を主に担うベテラン）
⑦事業で生じる循環	地道な地域づくりの実践→人が人を呼び込む→井仁の棚田米の価値を維持したまま生産量拡大→生産者の収入増→米のみならず新たな農作物の生産（機械化など効率化も視野）→生産者の収入増→廃校を活用したコミュニティスペースの開設→関係人口の増加
⑧事業で生じる成果	これまで以上の情報発信・情報共有がなされることにより、井仁地区がより注目され、活性化されることで都市と農村の交流が活発になり、地域資源を再認識することでシビックプライドの醸成へと繋がり、安芸太田町全体への経済・社会・環境保全の波及効果もたらされる
<p>人手不足</p> <p>課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像</p> <p>・これまでの地域イベント等へ参加されたことあり、地域を体感したことのある方々</p> <p>・事業を通じ、地域に貢献出来ることを検討されている都市部企業</p> <p>・地域内外を俯瞰的な視点及び多様なネットワークを持たれている専門家等</p>	

# ローカルSDGs 事業の詳細

筒賀龍頭峡と井仁の棚田の周遊型フラワーエコツーリズム『旬華周道 あきおた』

## あらすじ

花、棚田、峡谷などの豊かな自然を巡り親しむことで、心と体を癒しつつ健康の維持促進につながるツーリズムを計画。  
 里山の暮らしかや営みを体験しながら、この地域で飲食・健康・観光事業などを起業し移住定住を想起できるような新たな周遊観光事業モデルを開発するため、地域内外の住民や事業者とプロジェクトを進め、地域課題解決と持続可能な地域社会を構築していく。

## ストーリー

西中国山地にある広島県安芸太田町は、平成初期に多くの施設がつけられ、当時は「自然と親しむ」野外活動や「自然の大切さを学ぶ」体験活動を盛んに行っており、自然環境や循環について身体で感じる事ができていた。しかし、時代は令和になり、少子高齢化、インターネットやスマホの普及など急速な社会の変化の中で、我々は何時しか地域コミュニティや自然体験から学ぶという生きていく基本のような事が薄れ忘れられたかのようにも思える。そこで、私たちの拠点である「筒賀龍頭峡」そして近接する「井仁の棚田」の地域資源をもう一度見直し、安芸太田町の豊かなフィールドを活用したツーリズムを開発できないだろうか考えた。龍頭峡は、豊かな森に囲まれた景勝地で、展示室や森林セラピーロード、キャンプ場など、訪れる人々に楽しんでもらうための施設の老朽化に苦慮している。一方、井仁の棚田は、日本の原風景ともいえる美しい棚田が広がる場所で、「つなぐ棚田遺産」にも認定され、地域住民が大切に守り続けている。そのような中、令和6年度共生圏づくり事業の3回目の意見交換会において、筒賀龍頭峡に近い場所を拠点にしている花のアレンジデザイン事業者のアイデアから「花」に着目したツーリズムの構想が生まれた。例えば、春、棚田一面に咲く菜の花。夏、龍頭峡の森に広がる可憐な山野草。秋には黄金色に輝く稲穂が風に揺れ、冬には静寂の中に可憐な花々など、この四季折々の野花などを軸に、自然・文化・食、そして地域の人をつなぐ新たなエコツーリズムを生み出せないか、地元宿泊施設や飲食店、地域の事業者、学校、行政機関と手を取り合い、プロジェクトを進めることで地域社会・経済・環境の持続と地域課題の解決になるのではと考えた。花は特に女性や子供、年配の方に好まれる傾向にある事や、見に行く手軽さもあり、愛好家も多く万人受けする。花をテーマにした体験プログラムの開発、棚田と峡谷を巡る周遊ルートの整備、都市部の人々にも魅力を伝える情報発信、観光客を受け入れる環境整備など、少しずつ関心が集まり、景観目的で花を植えれば写真家たちが訪れ、自然観察が好きな人々が四季の変化を感じにやってくる。地域に人が戻り、活気が生まれる。観光が盛んになれば、雇用が生まれ、移住者も増え、地域の特産品も注目される。何より、住民たちがこの美しい自然を守る誇りを取り戻すことができる。そしてこの取り組みは、やがて安芸太田町を超え、周辺地域や太田川流域連携も視野に成長していくストーリーが生まれ、まさに広島市の源流域である安芸太田地域の大切さと魅力を広く伝えていくこともできる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
① ありがたい未来	唯一無二の里山の自然が、「花」をきっかけにお出かけスポットやヘルスツーリズムスポットなど、持続可能な観光地として発展しつづける	エコツーリズムを推進できる人材 多言語対応や専門知識を持つ人材 情報発信対応能力 集客対応と拠点整備
② 課題	観光客の受入体制整備、多言語対応、情報発信、宿泊施設の拡充	
③ なぜこの事業をやるのか (Why)	筒賀龍頭峡と井仁の棚田の豊かな自然と景観を守り後世に継承し、花と自然を活かしたエコツーリズムを通じて、地域経済の活性化と持続可能な社会・環境・経済の維持発展させるため	
④ 地域資源	龍頭峡の豊かな自然 (山野草、紅葉、滝、登山、水)、日本の原風景ともいえる井仁の棚田の里山景観、地域住民の温かいおもてなし、地域特産品 (米、野菜、加工品)、筒賀温泉、歴史・文化資源、植林地など	
⑤ 商品・サービスの具体的な内容 (What)	筒賀龍頭峡と井仁の棚田、それぞれの地域資源を最大限に活かし、きれいで華やかな印象を与え、癒し、感動を与える普遍的な魅力を持つ「花」をテーマにしながら、森林セラピーや森林健康ヨガ、押し花やハーバリウムなどのクラフト体験、フラワーガイドによるフラワーハイキングや龍頭峡での山野草観察会、田畑耕作体験と棚田米を食す民泊、星空観測などのナイトハイク、といった四季に対応する組み合わせ自在で魅力的な体験メニューを取り揃えたエコツーリズムを構築	
⑥ 担い手 (Who)	農家、川での漁業者、民宿・民泊経営者、観光事業者、地域活動団体、植物学者、自然ガイド、フラワーデザイナーなど	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦ 事業で生じる循環	地域経済の活性化、地域資源の保全、地域コミュニティの活性化、健康増進	エコツーリズム、受入環境整備、多言語対応、情報発信、各々に関する専門家や企業
⑧ 事業で生じる成果	観光客の増加・滞在による経済効果 (宿泊、飲食店、お土産など) 移住定住の促進 地域ブランド向上、地域課題解決への貢献	

# 3カ年状態目標

## ■ 2026年度末の状態目標

持続可能な周遊型体験プログラムが確立し、運用されるようになる。

## ■ 2025年度末の状態目標

ステークホルダー同士のコミュニケーション（町内外を含めた）の場が継続的に開催される（森ラボ）  
またそこから既存のプロジェクトの更なるブラッシュアップ、及び新たなプロジェクトの創出に繋げていく。

## ■ 2024年度末の状態目標と振り返り

意見交換や 情報共有の「場づくり」の機会が確保されることでお互いの課題を認識。  
そうすることでコミュニケーションがより図られ地域の理解も深まり、関連するステークホルダー同士の信頼関係も構築される。  
また次年度以降に向け様々なものを「繋げていく」ためのツールとしてLINEアカウントを開設する。  
上記いずれも状態目標は達成できた。  
今後も継続すること、ならびに活性化することが必要。

# 中間支援主体のありたい姿

## ■ 中間支援主体としての獲得目標

- ・活動団体との距離感をさらに縮めながら「喝を入れる」「癒しとなる」という支援手法の獲得を目指したい
  - ・活動団体から頼りにしてもらえるようになること、また、各ステークホルダーからの信頼を得ることを目指したい
- また、単なる中間支援主体ではなく活動団体と一体となった取り組みのあり方を模索したい

## ■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

DMOとして目指すべき観光地域づくりの実現のために、地域循環共生圏の概念を取り入れ、町内に地域循環共生圏づくりを広げる。

また、地域の事業主体同士に加え、住民や各種コミュニティ、行政、ならびに他地域や、国が進める政策等の社会の潮流とも地域をつなぐようなハブとなり、より多くの地域が持続可能になることに貢献していく。

# 中間支援主体の支援・取組計画

## ■ 中間支援主体の1年間の支援目標

地域の関係者を巻き込んで、地域資源の現状や地域課題をより深掘って整理し、更なる地域ビジョンの作成や、その後のローカルSDGs事業創出に向けて、地域内での意識醸成が図れている状態を目指す。

## ■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	・安芸太田町における新たな事業運営の経験値が少ない中で、いかにして事業主体を探し出して事業を生み出すフェーズまで持っていくかが重要	・事業計画の策定や事業資金調達に対する資源連結機能や問題解決提示機能を発揮し、専門家や企業・経済団体の紹介、他地域や先進事例の紹介などによる具体的な支援を行う
②	・安芸太田町における新たな事業運営の経験値が少ない中で、昨年度実施した意見交換会だけでなくプロジェクト推進や専門家招聘による勉強会などの幅広い取組が予定されているため、段取りよく準備、運営していくことが必要	・必要となるツールやノウハウの提供や、実際の場面における支援を通じて、段取りよく準備、運営できるようにする
③	・昨年度は意見交換会の実施に注力したため、本年度は地域内外に向けた情報発信を強化し、多くの人や企業・団体等による事業内容に対する理解や共感を深めていくことが必要	・情報発信の強化にあたって必要な情報などを提供するとともに、中間支援主体自体の情報発信機能や各所との連携などによる支援を行う

# 活動・支援スケジュール

## ■スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プラットフォーム構築のための取組【活動団体】		◆キックオフ MTG		◆森ラボ ◆ステークホルダーMtg (安芸太田町ヘルスツーリズム推進協議会総会)			◆森ラボ	◆中間共有会		◆森ラボ		◆中間支援 ギャザリング
ローカルSDGS事業創出に向けた取組【活動団体】		◆棚田再生PJ			◆勉強会		◆棚田再生PJ		◆勉強会		◆棚田再生PJ	
中間支援主体の支援・取組計画		◆キックオフ MTG		◆森ラボ ◆ステークホルダーMtg (安芸太田町ヘルスツーリズム推進協議会総会)	◆勉強会		◆森ラボ	◆中間共有会 ◆勉強会		◆森ラボ		◆中間支援 ギャザリング

備考（補足説明など必要な場合は記載）

◆森ラボ；令和6年度事業により創出した地域プラットフォーム

◆安芸太田町ヘルスツーリズム推進協議会；町内外のステークホルダーが数多く参画し、森林セラピーをはじめとした町内のヘルスツーリズムを推進する協議会（一般社団法人地域商社あきおおたが事務局を担っている）

◆棚田再生PJ；令和6年度の事業のタネとして創出されたプロジェクト

◆勉強会；事業計画の策定や事業資金調達に対する専門家等を招聘した勉強会